

2.概要説明	システム名 業務機能名 プログラムID	f013カタログ部品データ作成 f013WEBカタログ部品情報Excelデータ入替作成 f013_parts_id='applicable'&period='reset'	システムID バージョン プロジェクトNo.	作成日 更新日 区分	作成者 更新者 専用	3H待避 3H待避 専用
機能概要・目的						
車両モデル単位の年式適用可否を一貫して判定できるよう、適用期間情報の欠落を解消するために、「部品開始日」、「部品終了日」の補完をする。 後工程の処理も処理できるために、データ品質をアップする。						
本プラグインは、契約インターフェースを実装しています。 ※「プログラム基本設計書」、「プラグイン・振分モジュール・解析加工IF定義」を参照する。						
概要						
ArangoDBが起動されて、指定された「車両モデル」の累積Parquetファイル群のデータをマージしてから、「部品開始日」、「部品終了日」(適用期間)の補完を行います。 1.最小部品開始日、最大部品終了日の取得 指定の車両モデルの各累積Parquetファイルに、全て部品データの中から、最小の部品開始日と最大の部品終了日を基準値として抽出・保持する。						
2.部品開始日、部品終了日の検定 対象部品は下記の2つの場合、補完する。 ・「部品開始日」「部品終了日」の両方が空またはNULLの場合、「部品開始日」を最小の「部品開始日」に設定し、「部品終了日」を最大の「部品終了日」に設定 ・「部品開始日」だけが空の場合、「部品開始日」を最小の「部品開始日」に設定						
3.レコードの生成と返却 車両モデルの全レコードの補完処理が終わったら、指定のインプットスキーマレイアウトに従ってレコードを1件ずつ生成し、返却する。						
概要フロー						
1. 開発環境 開発言語 : C# フレームワーク : .NET 8.0 ライブラリ : DuckDB.NET.Data.Full 1.2.0						
2. 入出力 入力: 車両モデルで決まった累積Parquetファイル群(フォルダーにあり)Parquetファイル						
出力: 累積Parquetファイル群のマージできた、適用期間補完できたレコード群 ※累積Exe側で、このレコード群を車両モデルの一つParquetファイルに出力する。						

最古の「部品開始日」取得 :

SELECT MIN(f013_parts_start_date) FROM [tempTableName] WHERE f013_parts_start_date <> '' AND f013_parts_start_date is not null

最新の「部品終了日」取得 :

SELECT MAX(f013_parts_end_date) FROM [tempTableName] WHERE f013_parts_end_date <> '' AND f013_parts_end_date is not null

「部品開始日」「部品終了日」の両方が空またはNULLの場合、「部品終了日」のリセット :
UPDATE [tempTableName] SET f013_parts_end_date = '[endDate]' WHERE (f013_parts_start_date = '' OR f013_parts_start_date = '0') AND (f013_parts_end_date = '' OR f013_parts_end_date = null OR f013_parts_end_date = '0')

「部品開始日」が空またはNULLの場合、「部品開始日」のリセット :

UPDATE [tempTableName] SET f013_parts_start_date = '[startDate]' WHERE (f013_parts_start_date = '' OR f013_parts_start_date = null OR f013_parts_start_date = '0')